

科目ナンバリング		G-LAS12 80052 LJ13							
授業科目名 <英訳>	プラットフォーム学展望 Perspective in Platform Studies			担当者所属 職名・氏名	情報学研究科 教授 原田 博司				
群	大学院横断教育科目群		分野(分類)	統計・情報・データ科学系		使用言語	日本語		
旧群		単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義(対面授業科目)		
開講年度・ 開講期	2026・後期		曜時限	火5		配当学年	大学院生	対象学生	全学向
(情報学研究科の学生は、全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。)									
【授業の概要・目的】									
本講義では、社会に遍在する各種情報をデジタルデータ化し、そのデータを広範囲に収集し、ビッグデータと呼ばれる大規模データとして蓄積、それらデータの整理・分析・共有するという情報通信(ICT)技術を利用した“プラットフォーム”に関連するテーマについて、本研究科の教授、プラットフォーム学卓越大学院プログラム担当教員、外部講師により最先端の話題の提供を行う。									
【到達目標】									
情報通信技術の観点からプラットフォーム学を俯瞰し、特に、知能情報学・先端数理科学・数理工学・システム科学・通信情報システムに関する理解を深めるとともに、今後の展望を自ら考える。									
【授業計画と内容】									
1. プラットフォームの概要(1回)：プラットフォーム学で取り上げるプラットフォームの概要を解説する。 2. 通信情報システムとプラットフォーム(1回)：社会に遍在する各種情報・データをサイバー空間に収集し、収集したビッグデータを処理した結果を実空間にフィードバックするプラットフォームで利用される通信情報システムを展望する。 2. 知能情報学とプラットフォーム(3回)：サイバー空間上に収集された、センサー、メーター、モニター情報を知能情報学の観点で整理、解析、分析、利活用する実際を展望する。 3. 先端数理科学とプラットフォーム(1回)：サイバー空間上に収集された、センサー、メーター、モニター情報を先端数理科学の観点で整理、解析、分析、利活用する実際を展望する。 4. 数理工学とプラットフォーム(1回)：サイバー空間上に収集された、センサー、メーター、モニター情報を数理工学の観点で整理、解析、分析、利活用する実際を展望する。 5. システム科学とプラットフォーム(2回)：サイバー空間上に収集された、センサー、メーター、モニター情報をシステム科学の観点で整理、解析、分析、利活用する実際を展望する。 6. 情報通信基盤を利用したプラットフォームの実際(4回)：社会で実運用されている情報通信基盤を利用したプラットフォームの実際を展望する。 7. 到達度評価 1回(レポート試験)									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・観点】									
各テーマごとに課すレポート課題により評価する。また、平常点、授業への積極的な参加も評価に用いる。									
プラットフォーム学展望(2)へ続く									

プラットフォーム学展望(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

原田博司『プラットフォーム学』(Kadokawa, 2024年) ISBN:9784049111415

[授業外学修(予習・復習)等]

各講義の復習を行い、レポート課題に取り組む。

[その他(オフィスアワー等)]

オフィスアワーはメールのやり取りで随時行う。メールアドレスは授業中に示す。

[主要授業科目(学部・学科名)]